

平成 29 年度第 2 回大阪府立近つ飛鳥博物館指定管理者評価委員会

議事要旨

- 1 日 時 平成 30 年 2 月 15 日 (木) 10 時～12 時 30 分
- 2 場 所 大阪府立近つ飛鳥博物館 2 階会議室
- 3 出席委員 織田委員、高橋委員、山根委員、和田委員
- 4 議事内容 平成 29 年度指定管理運営業務の評価について

【主な意見】

- I-(1) 「施設の設置目的及び管理運営方針」の「大阪の魅力発信」について、冬季特別展で河南町の高貴寺をとりあげた点は、古墳や考古学以外のテーマを取り上げる新たな試みとして高く評価できる。今後、水の都、東アジアとの交易等、歴史的に培われてきた大阪の魅力を活かしたテーマの展示も実施できるとよい。また、同じ時代を扱う中国や韓国の博物館と何らかの形で交流していけるとよい。
- I-(2) 「平等な利用を図るための具体的手法・効果」について、障がい者への機器用電源等の確保は充実した取組みである。
- I-(2) 「平等な利用を図るための具体的手法・効果」の外国人利用者への配慮に関連する点として、電波が非常に悪い点は課題である。Wi-Fi を導入できるとよい。
⇒事務局：費用の問題があるが、環境改善に取り組みたい。
- I-(3) 「利用者の増加を図るための具体的手法・効果」について、館外利用者数が非常に多く、入館者数も昨年より大きく増加している。施設所管課評価は A となっているが、S 評価とすべきである。
⇒事務局：追記・修正を行う。
- I-(4) 「サービスの向上を図るための具体的手法・効果」について、利用者の意見を反映して「れきしウォーク」の回数を増やしている点は特に評価でき、施設所管課の S 評価は妥当である。
- I-(5) 「新しい展示テーマ・運営手法の実行」について、冬季特別展で考古学ではないテーマを取り上げたことが新しい客層の来館につながっている。
- I-(8) 「府施策との整合」について、「こころの再生府民運動」のワークショップは非常に充実している。
- 開館から 24 年が経過しており、常設展をリニューアルして新しい研究成果を取り入れるべき。百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の取組みも進んでおり、外国人利用者が古墳

とは何かを理解できるよう、東アジアや世界の中での説明があるとよい。財政的な面については、寄付の活用もできるとよい。

⇒事務局：リニューアルについては来年度から検討を進めていく。

○仁徳天皇陵古墳の模型はもっと活用すべき。他館等に貸し出し可能な写真や映像があるとよい。

⇒指定管理者：コンテンツの増加や発信に取り組みたい。

○対応方針について、**SNS** やターゲット広告を活用することはよいが、そうしたインターネットを介して訪れた方々が満足されるような工夫も必要。現在の展示は非常に重要な内容ではあるが、楽しい体験ができる、古墳グッズの充実等、新たな来館者に向けた展示やコーナーも設ける必要がある。一方、新聞広告については、今後見直していくべきではあるが、ファンの多い**50代～60代**で興味はあるが来館されていないという方々に対しては、重要な媒体である。メールを使えない方々には往復はがきやファックス等の手法が必要といったこともあわせ、そうした方々へのフォローも継続していくべき。

【今後の進め方】

「評価票」及び「改善のための対応方針」について、意見を踏まえて事務局で追記修正を行い、委員長の確認を得たうえで各委員に報告する。